

今年度も引き続き、校長室から日頃の「雑感」をお届けいたします。昨年度は例年以上に数多くの生徒の皆さんが校長室に足を運んでくれ、大会報告や各種イベント案内など、様々なお話を聞かせてくれました。教育活動はもちろん、そうした生徒の皆さんとの談話等も交えながら綴ってまいりますので、ご笑覧いただけましたら幸いです。

One for all, All for one. No.83

R6.10.2 「報恩講」

阿弥陀如来、親鸞聖人をはじめ、念仏の教えに生きられた先達に思いを馳せ、その恩徳に感謝し報いるための法要が「報恩講」になります。

宗教教育を担当されている藤平 竜多先生から「日本の暦には、『母の日』、『父の日』、『敬老の日』など特別な日が記念日として設けられています。本来感謝の気持ちは日頃から伝えるべきことですが、私たちはつい優しさに甘えてしまい、いつしかそれが当たり前のように思ってしまうがちです。こうした記念日は、そうした私たちに感謝の思いを改めて気づかせてくれる機会なのかもしれません」とお話しされました。

今日の「報恩講」を通して、慌ただしい毎日の中にあっても、大切なことや感謝の思いを忘れずに過ごしていくことの大切さを学びました。

「私たちは身近な人や周囲の人に生かされ、支えられています。そのことへの感謝の気持ちを日々決して忘れないようにしてください」と藤平先生が結ばれたように、どんな些細なことにも「有り難う」の気持ちを持てるといいですね。



One for all, All for one. No.84

R6.10.2 「任命式」

「報恩講」に続き、生徒会主催の後期HR委員の任命式が行われました。後期生徒会総務役員は前期生徒会長の竹内 日葵さんから、HR委員長は前期生徒会会計の備中 ころろさんからそれぞれ氏名が読め上げられ、全校生徒に紹介されました。



前期総務役員とHR委員の皆さんは、数ある学校課題に積極的に携わり、大きな成果を上げてくれました。皆で力を合わせ、創意工夫ある企画・運営に当たってくれましたことに心より敬意と感謝の念を表します。

本当にお疲れさまでした！

10月から、そのバトンは後期役員の方の皆さんへと引き継がれます。生徒会

総務役員の皆さんを中心に、在校生全員が自発的に学校づくりに関わり、協力し助け合う中でより良い環境を作ってくれることを期待しています。

One for all, All for one. No.85

R6.10.3 「地域課題について考える」

3年生の野島 陽依さんが、旭川市が主催する地域課題解決に向けた提言コンクールで、見事「最優秀賞」を受賞しました。テーマは「町内会を持続可能にするアイデア」で、課題解決に向けた提言が各高校生に広く募られました。

昨今は仕事の多忙さや子育ての大変さも影響しているのでしょうか、若い世代世帯の「町内会」離れが増加し、運営の中心になられている方々の高齢化が進んでいるという課題があるようです。そこで、今回「町内会」に以前のような活気を取り戻すためのアイデアを募ることになりました。

野島さんの提言は「共生で楽しむ町内会 ～地域ぐるみの子育て～」という内容です。若い世代の方々がお子様と一緒に会合や運営に参加できるよう「託児所」的役割を併設し、同時に、その子どもたちのお世話や遊びを地域の方々が皆で行うというものです。そうした異世代の出会いが新たな話題を生み、町内会そのものがコミュニティ的な憩いの場にもなるという発想でした。

このお話を聞いていて、かつて地域全体が一つの拡大家族となり、地域の誰もが子どもの成長に関わり、高齢者を敬い支え合った時代が蘇ります。核家族が増え、近隣の出来事にも無関心になりつつある現代にあって、何とも温かで豊かな発想に思えました。



誰しもが多くの人に支えられ生きていることを忘れがちとなり、同時に他者への思いやりや感謝の気持ちが薄れていく世の中だけは避けたいものです。コミュニティ的役割も併せ持つ「町内会」の活性化は、単に地域行事の有無にとどまらず、人としての愛情を深め合い幸福感を得られる場にしたいという野島さんの提言に感動しました。

何より多くの高校生が地域課題と真摯に向き合い、主体的に解決策を考えてくれること自体、明るい未来を創造する上で大変素晴らしいことだと感じました。

One for all, All for one. No.86

R6.10.5 「ラーメン甲子園」



永山ラーメン村を会場に「2024 ラーメン甲子園」が開催され、今年も多くの方で賑わいました。

龍谷ブースのスタッフを務めたのは、今夏野球部を引退した3年生の皆さんです。人気ラーメン店のご協力もあって、とても美味しいラーメンが出来上がりました。

人気投票の結果では、本校が何と3連覇を成し遂げました。

調理にあたった面々の手際よさと独特の味付けが高い評価を得たようです。

参加は高校3校とちびっこラーメン隊の4団体でしたが、どのラーメンにもオリジナルの工夫が凝らされ、見た目も香りも甲乙つけがたいほどの出来栄でした。

子どもたちの掛け声があちこちから飛び交い、ラーメン作りに励む表情にも楽しさがにじみ出ていました。



One for all, All for one. No.87

R6.10.7 「全校応援」



高野連秋季大会の決勝（7日に実施）で全校応援を行いました。新チームとなり初めての公式戦だけに力も入り、在校生も心一つに大きな声援をおくっていました。

結果はもつれにもつれ、最後は延長戦の末の惜敗となりましたが、選手は最後まで諦めず高校生らしい積極的なプレーに徹していました。

代表権まであと一步届きませんでした。今後の飛躍が楽しみになるような好プレーも随所に見られました。応援の生徒にもその直向きの姿勢は十分に伝わったことと思います。

敗戦での悔しさをバネに、新キャプテンを中心にさらに結束して次回につなげてくれることを祈っています。



One for all, All for one. No.88

R6.10.8 「芸術鑑賞」

人格の完成を目指す豊かな感性や創造性の涵養を目的に、年に一度外部から芸術団体をお招きし「芸術教室」を実施しています。伝統芸能、音楽、演劇など日常生活ではなかなか味わうことのできない本格的な芸術に触れることで、新しい意味や価値をつくりだす創造性を育んでいきます。



今回お招きしたのは、『本物の舞台にある「感動」を届けたい』をスローガンに、全国各地でご活躍されている影向舎（YOGOSHA）の皆様による学校寄席です。

寄席の入門から落語、色物と呼ばれる太神楽曲芸に至るまで、日常では見ることのできない貴重な芸能の数々をご披露くださいました。

笑いあり、感動ありの時間はあっという間で、生徒もしばらく余韻に浸っていました。

R6.10. 9~10 「Lovers」

大雪アリーナを会場に全道高等学校美術展が開催されました。各支部から選出された入賞作品が所狭しと展示され、それぞれの完成度に圧倒されます。

中でも本校から唯一選出された 2 年生 小野寺 衣織さんの作品「Lovers」は、観衆の脚光を一際浴びていました。CG 作品というオリジナル性に加え、その鮮やかな色使いや背景の「白」とリンゴの「赤」のコントラストは「美しい」の一言に尽きます。



小野寺さんは幼い頃から絵を描くことが好きで、当時はクレパスで様々な絵を描いていたそうです。

「今は特に人物画が好きで、見たものを一旦自分の感情に落とし込み、そこからイメージされたものをデフォルメしながら描いていきます」と言うように、今回の作品にも優れた感性が光ります。

「Lovers という表題は、私が大のリンゴ好きであることから名づけました」との言葉どおり、掌に輝く美しいリンゴの造形は、今にも幸せを運んできそうです。

R6.10.15 「秋季大会でも活躍」

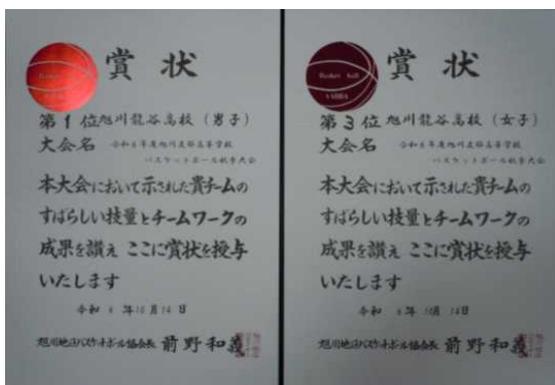
連休中に行われたバスケットボール秋季大会で、男子は優勝、女子は3位と、ともに新チームとして大活躍をしてくれました。

男子チームは、今年の夏に多くの皆様のご支援をいただきインターハイに出場してきました。全国大会初出場という緊張もあって常連校に惜敗する結果となりましたが、次につながる多くのことを学んできました。その成果が早速この秋季大会に表れたようです。

キャプテンの2年生 大塚 瑛太君は「最優秀選手」にも選出され、大黒柱としてチームを牽引します。今年は他校から戦法を研究され追われる立場になりますが、そうしたプレッシャーを撥ね退け、常に高みを目指し、さらに躍進してくれることを期待しています。

また女子チームも善戦しました。結果こそ3位に終わりましたが、上位校と遜色のない試合内容に大きな手ごたえを感じたようです。今後の大会に期待が膨らみます。

バスケット部の皆さんには、学校行事はじめ、学校説明会時の会場設営や後片付けでも大変お世話になっています。心から感謝しています！



R6.10.16 「大賞を受賞！」

今月9～11日、小樽で開催された第58回全道高等学校書道展で、最高賞となる「文化連盟賞」に輝いた3年生の阿久津 妃依さんにお話を伺いました。



「書道を本格的に始めたのは高校に入学してからです。当初は字を書きたいというよりは、先輩方の楽しそうな雰囲気誘われ入部しました」と爽やかな笑顔で語ってくれました。アットホームでいつも温かな雰囲気なのは書道部の伝統と言えます。

入部間もない頃から、流れるような美しい字体の「行書」に心を惹かれ、様々な古典に挑戦してきたそうです。

今回の出品作は空海の「灌頂記」の臨書で、この古典は書作品の中でも屈指の傑作として知られているだけでなく、仏教資料としても大きな価値を持っています。

阿久津さんの作品には、自然でかつ力強い運筆と重厚でありながらも繊細な空海の特長が見事に表現されています。(作品はHPの『龍谷ニュース』に掲載しています)

「大小の文字が入り交じっているところや自然な筆づかい、流れるような表現に苦労しました」と制作当時を振り返ります。

「全道大会では他校の作品を数多く見ることができ、空間処理や様々な筆づかいがとても勉強になりました。それぞれの作品に作者の自由な思いが自在に表現されていて、それもまた書道の大きな魅力だと思います」と語るように、前部長として後輩の模範となり、牽引してきた最上級生としての風格と寛容さがとてもよく伝わってきました。



書道部は練習の合間を縫って、地域イベントでのパフォーマンス等の依頼を引き受けるなど、日頃から地域に大きく貢献しています。そうした経験を通して、素晴らしい人間性が培われていくものと今回の対話を通して感じられました。

R6.10.16 「生け花」

放課後、華道部の皆さんが「生け花」を校長室に飾りつけてくれました。季節を代表する花々の美しさに、いつも心が癒されています。



華道部の皆さん、本当に有り難うございます！

今回は、秋を代表するカーネーション、エゾギク、ワレモコウであっていますか？(詳しくないので間違っていたらごめんなさい)

独特の色合いの組み合わせと花高を考えた生け方の構成に、改めて華道の奥深さを感じます。

華道も茶道も『道』の精神を持つ日本の伝統文化だけに、いずれも仏教に通じる礼節を重んじているように思われます。

R6.10.16 「OGによる講演会」

人事バンクにご登録いただいている本校の卒業生 政二 仁美様にご講演をいただきました。

政二様は、在学当時空手部に所属しており、選手としてインターハイで準優勝するなど輝かしい実績をお持ちになります。

空手を始めたのは小学校入学時で、以来、大学や社会人でも日本屈指の空手家として様々な大会でご活躍されました。

その傍ら、競技の普及活動や指導者として数多くの優れた選手を輩出するなど、大きな実績を積んでこられています。

旭川地区空手道連盟の理事長であるとともに、北海道連盟の副理事長をも兼任されており、そうした功績が高く評価され、今年度の旭川市スポーツ協会表彰では「スポーツ貢献賞」を受賞されました。



ご講演では、「挨拶」の大切を強調されました。「挨拶によって互いの距離が縮まり、心の緊張がほぐれます。そこに必然と新たなコミュニケーションが生まれます。そして、自分を知ってもらい相手を知ることにより、新たな発見と自己の成長へのヒントを得ることができます。今の自分があるのも、その時々のお会いや支えがあったからこそと思っています」と話されました。

また、失敗を恐れず積極的に行動を起こすこと、若さを武器に悔いのない高校生活を過ごすことの重要性についても語られました。「何もしなければ何も得られない。あの時こうしておけばよかったと思っても時すでに遅し。しかし行動さえ起こせば、成功しても得られものがあり、失敗しても次につながるヒントが得られます」

「今」という時間を本当に大切に生きて欲しいというメッセージが強く伝わりました。